「２０１０年３月期 第３四半期 決算説明会」質疑応答

Q1）説明資料Ｐ．１４「四半期毎の市場別売上高」の第３四半期実績について、もう一度詳しく説明願います。

A1）国内の金融市場は、93 億円の計画に対して実績は 88 億円となり、計画比 5 億円のマイナスとなりました。主な原因は、金融危機により設備投資が抑制され、当社の主力製品 WAVE の売上が計画を下回ったことが挙げられます。

海外市場は、68 億円の計画に対して実績は 61 億円となりました。OEM製品とアメリカの売上高が計画を下回ったことが要因です。

流通・交通市場は、58 億円の計画に対して実績は 62 億円と、計画比 4 億円のプラスとなりました。

交通市場向けの現金入出金管理機の売上高が堅調に推移したことが主な要因です。

自動販売機市場、遊技市場は、ほぼ計画通りでした。

その他の市場は、8 億円の計画に対して実績は 10 億円となりました。

Q2）営業利益については計画と比較していかがでしょうか。

A2）営業利益は計画 16 億円に対して、実績 25 億円でした。

海外生産・調達比率の向上と生産量の増加により、売上原価率が抑えられたこと、また、販売費、一般管理費が 98 億円と計画よりも低く推移したことが要因です。

Q3）第４四半期の売上原価率予想を教えて下さい。

A3）売上原価率は 67.2%になると予想しています。第4四半期は、設計手数料等の増加や生産量の調整を考慮し、原価率はアップすると考えています。

Q4）第４四半期の金融市場の業績予想の背景を教えて下さい。

A4）WAVE の売上に期待しています。毎年3月の受注量が多く、今年度もその傾向が見られます。

Q5）海外ＯＥＭの売上高は、四半期ごとに見れば変化はありませんが、来期の考え方を教えて下さい。

A5）今期の第1四半期は、OEM 製品の納品先で在庫過多の状態でしたが、第2四半期以降徐々に減り始めています。しかし、金融危機の影響で ATM 市場が厳しく、第3、第4四半期は横ばいとなると予想しています。今のところ、来期の見通しはつかみにくい状況です。

Q6）いくつかの機種を共同開発されていると伺いましたが、その状況はいかがでしょうか。

A6）既存製品から機能のアップとコストダウンに対応したモデルを共同開発しています。

今後、小切手など現金以外の入金にも対応したATMが市場で拡大するものと予想しています。

Q7）遊技市場は、客離れなど環境が厳しいとの見方が広がっていますが、御社はいかがでしょうか。

A7）現在、複数レートでの貸し玉営業を行う店舗が市場の 6 割を占めています。低レートのパチンコ玉と高レートのパチンコ玉を混合させない商品として、各台計数機の需要が高まっていますが、市場での稼動台数は1000 台にも届きません。各台計数機は、これから伸びるのではないかと考えております。

Q8）アメリカ市場が回復する見込みはあるのでしょうか。

A8）世界ではヨーロッパの方がアメリカより景気が悪いと言われていますが、当社の事業分野ではアメリカの方が悪い状況にあります。新製品開発や市場開拓など基盤整備を着実に進め、金融機関の設備投資の回復に備えます。

Q9）中国市場が今後急成長するとのことですが、何か特別な予定があるのでしょうか。

A9）中国市場については、代理店網の整備を進めています。また、中国では偽札の流通が増えており、偽札排除ができる ATM の需要も増えています。正損分離、偽札排除など機能的に優位性のある当社製品の需要は、今後も拡大するものと期待しております。

Q10）価格や生産性の面から、今後中国で生産することは考えていらっしゃるのでしょうか。

A10）現在も中国では、蘇州の工場で生産をしています。昨年の7月には同じく蘇州に第二工場を作り、こちらも既にフル稼働しております。中国は、中期経営計画の体質強化戦略で目標にしている海外生産・調達比率30%を達成するための重要拠点と位置づけています。

Q11）海外リテール市場の売上高の伸びが大きいと感じますが、トピックス的な製品としてはＲＢＷとＲＺと考えてよろしいでしょうか。また、特に２０１２年３月期に売上が急拡大しているように見えますが、何か予定されているのでしょうか。

A11）トピックス的な製品としては、紙幣入出金機RBWと窓口用紙幣入出金機RZですが、国内のリテール市場と同様に、店舗全体の現金処理業務の効率化、厳正化を図る仕組みを提案して行きたいと思います。
2012年3月期については、中期経営計画の海外売上高目標510億円を達成するには、リテール市場の成長は欠かせないものと考えております。